



日本新記録樹立時の記念写真



提供：早稲田スポーツ新聞会



# 今月のFujimist

西 裕大<sup>ゆうだい</sup>さん(早稲田大学競走部)

関 文化・スポーツ振興課 ☎049-252-7139

「0.1秒。普段の生活では誤差だと思う数字に、全身全霊をかけて練習してきました」。そう語るのは、今年4月に行われた「2023日本学生陸上競技個人選手権大会」男子200mの部で、コンマ数秒の世界を制して優勝した市内在住の西裕大さんだ。7月から8月にかけて中国で行われる国際大会「FISUワールドユニバーシティゲームズ」の陸上競技(8月1日～6日)にも日本代表として参加する。

中学まではサッカーに打ち込んでいたが、新しい挑戦をしてみたいと考えたとき、早稲田大学競走部のOBだった父の背中が浮かんだという。気が付けば高校では陸上部の門戸をたたき、今はかつての父と同じ、憧れだった<sup>えんじ</sup>臙脂色のユニフォームを身にまとう。陸上競技の魅力を伺うと、「走って一番前が勝ち、という分かりやすさが魅力の一つだと思います」と笑顔で答える。

大学4年生で迎えた全国大会、自己ベストを塗り替え初優勝を飾ったが、ここまでの道のりには悔しい思いもした。

「当時2年生だった自分のバトンパスの失敗で、日本新記録を逃したんです」。お世話になった先輩のために結果を残すことができなかつたと呆然としたが、「俺たちの分も、来年は日本新記録を目指してくれ」という先輩からのエールに再び奮起した。翌年、先輩の想いをつなぎ、男子4×200mリレーの日本新記録を仲間とともに打ち立てた。

「自分の強みは後半。ラスト50mの追い上げは誰にも負けません」と話す西さんのラストスパートは陸上だけではない。陸上競技は大学までと考え、残り1年を切った大学生活、学業と就職活動にも懸命に取り組み、選手権大会翌日に最終面接を控えるなど過密なスケジュールをこなしてきた。すべては「悔いなく陸上をやり切る」ため。

その先には社会人としての新たな挑戦が待ち受けているが、ユニフォームをスーツに着替えて、臙脂色の足を踏み出し、未来へと続くトラックを颯爽と駆け抜けていく。

<p>■市公式ホームページ</p>	<p>■ SNS</p>	<p>LINE Facebook Twitter Instagram YouTube</p>	<p>【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で</p> <p>【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで</p> <p>【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴</p>	<p>人口と世帯数(7月1日現在)</p> <p>人 □…113,167人(前月比 -16人) (男 55,490人 女 57,677人)</p> <p>世帯数…55,009世帯(前月比 +23世帯)</p>
-------------------	--------------	--	--	--

みんな笑顔☆ふじみ  
**富士見市**  
 ☎049-251-2711(代) FAX 049-254-2000  
 〒354-8511 富士見市大字鶴馬1800-1

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。